

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 横代 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

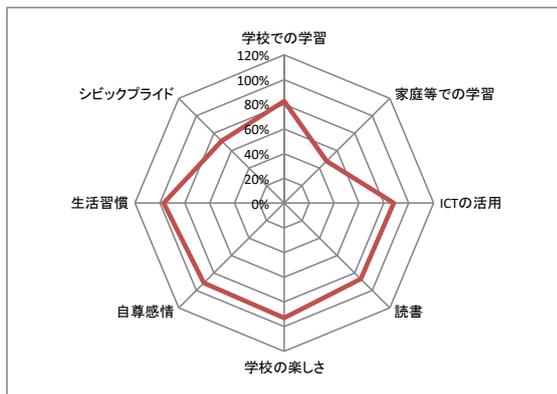
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的には全国平均を下回っていたが、「選択式」の問題の正答率は高かった。記述式の問題の正答率が低く、自分の考えが伝わるように書き表すことに課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	2つの文章を読み、内容として適切なものを選択する問題の正答率が比較的高かった。	
	努力が必要な問題	図表やグラフなどの資料を用いて、自分の考えが伝わるように工夫して文を書く問題の正答率が低かった。	

算数	全体的な傾向や特徴など	選択式の問題や短答式の問題形式の時は、比較的正答できるが、答えの理由を記述する問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	伴って変わる2つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求める問題の正答率が全国平均より高かった。	
	努力が必要な問題	図形の性質の意味を記述する問題や、面積の大きさの違いの理由を言葉や数を用いて記述する問題の正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析	
○	自尊感情や生活習慣などは、前年度よりも肯定的な回答の割合が増えている。「自分にはよいところがあると思う」と答えた児童の割合は7割程度であった。自己肯定感や自己有用感が高まるように、児童の成長を認め、適宜称賛するとともに、互いのよさを伝え合えるような場を設定していく必要がある。
○	学校の授業以外の学習時間・家で自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合が5割程度であった。「平日や土曜日・日曜日など学校が休みの日に1日1時間以上勉強している」児童の割合は2割程度であった。全校で自主学習の時間の目安（10分×学年）を示したり、個に応じた自主学習の量・内容・出し方を工夫したりすることで、自主学習の習慣を定着していく必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・基礎的・基本的な内容の定着を図るために、ドリルアプリを活用し、補充学習に取り組むようにする。
- ・学習のまとめや振り返りの場面に、「書く活動」を位置付け、自分の考えを表現することができるようにする。
- ・効果的なOJTの推進を図り、教師の授業力の向上を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・学校だよりや学年・学級通信で、家庭学習の重要性について、児童だけでなく保護者にも啓発していく。
- ・宿題の量や内容を発達段階に応じて用意することで、意欲をもって家庭学習に取り組めるようにする。
- ・引き続き低学年は、宿題プリントに保護者のサイン欄を設けることで、家庭との連携を図れるようにする。